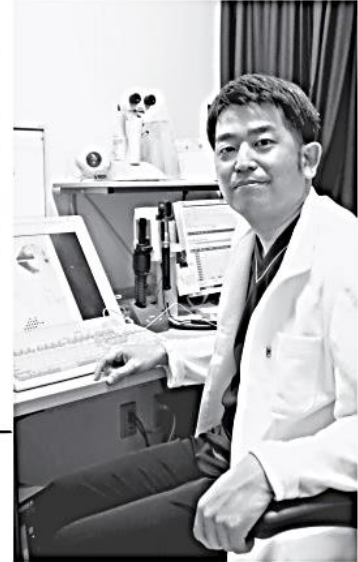


いしづち眼科(新居浜) 鈴木崇院長に聞く



日本人の40歳以上の20人に1人が緑内障といわれ、気づかないうちに何年、何十年もかかって少しずつものが見えにくくなり、失明原因のトップになっている。緑内障の根治は難しく、早期発見、早期治療が大切だ。いしづち眼科(新居浜市庄内町)の鈴木崇院長(42)＝写真＝に現状を聞いた。

気づかぬうちに視野徐々に狭く

緑内障はどのような病気ですか。緑内障は視神経が視神経乳頭を構成する約100万本の神経線維が減っていくと見えにくくなっていく状態です。見えにくくなるというのは、視力が落ちるのではなく、主に見える範囲(視野)が狭くなっていきます。何年、何十年もかかって徐々に視野が狭くなっていくので、なかなか気づきにくいのです。

いつ気づけることが多くあります。また、人間ドックや健診の眼底検査で緑内障の疑いがあるで紹介されて来られる。緑内障の患者さんにはこのくらいと推定されているので、40歳以上の20人に1人と推定されています。そのなかで治療を受けているのは10人に1人です。実際には患者さんよりもっと多いかもしれません。

眼圧正常でも視神経に障害

眼圧が正常でも視神経に障害がある。一般的な眼圧が正常でも視神経周辺の血流が悪くなると神経線維が障害され、減少すると考えられています。眼圧というものは形状を保つ圧力のことです。目の中で作られる液体を運ぶ房水と呼ばれる液体によって調整されています。房水は、目の中で循環し、隅角という角膜と虹彩の間を通り、最終的には繊維柱状という出口を通じて出ていきます。この房水の流れが悪くなると眼圧が高くなります。季節や時間帯により変動がありますが、だいたひ一定に保たれているのは10〜21mmHgまで

一般的には眼圧が高くなる原因は、遺伝的な要因、環境因子や全身疾患など複合的な要因が絡んでいます。明らかな原因が不明なこともあります。また、眼圧が高くなる原因によって緑内障はいくつかの種類があります。房水の出口である繊維柱が狭くなる閉塞性緑内障、加齢や白内障によって、隅角が狭くなり房水が排出されにくくなる閉塞性緑内障、生まれつき隅角が未発達な発達性緑内障、外傷や目の炎症によって起こる続発性緑内障です。そして一番、問題になっているのが正常眼圧緑内障です。眼圧が正常範囲なのに視神経が障害され、徐々に神経線維が減少していくのです。緑内障の7割を占めています。眼圧が発見できないので、早期に見つかることが難しいです。眼圧が正常なのに視神経が障害されるので、早期に発見することが大切です。

早期発見・治療が大切

点眼や手術で進行に歯止め

緑内障を見つけたら、一般的なには主に3つの検査で見つけます。眼底検査、眼底検査と視野検査です。40歳以上対象の特定健診には眼底検査が入っていることもありますが、眼底検査で視神経が収束している視神経乳頭と言った場所もともと入っていないのですが、そのへんが通常より広がっているような緑内障の疑いがあります。眼科で診てもらった必要があります。

眼科での眼底検査では正常値かどうかを確認しますが、正常眼圧緑内障ではこれだけでは診断できません。最終的には視野検査を行って、視野が欠けていないかどうかを診て診断します。

緑内障の治療効果はなかなか実感できません。定期的に検査して、進行が抑えられていることが実感できれば、点眼を続けようという動機になります。このクリニックではOCTの画像だけでなく、視野検査の結果、眼圧の変化を総合的にモニターに映し出して、患者さんに説明します。症状の変化の、見え方でもなかなかわかりにくいですが、画像を見ると点眼の効果を実感できるのです。

40歳以上で近視は検診を

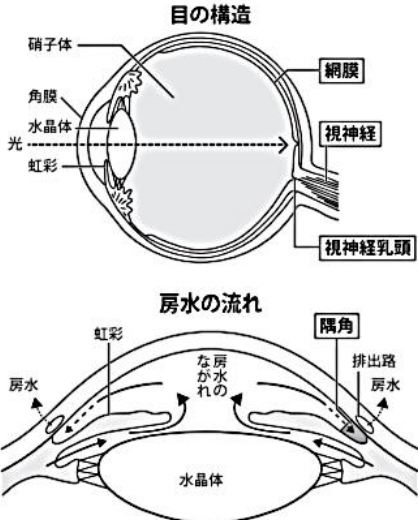
緑内障は予防できるのです。近視がそのひとつです。近視がそのひとつです。また、糖尿病、動脈硬化など末梢の血管を障害する病気がある時にも要注意です。また、早期発見、早期治療がポイントです。製薬会社が緑内障をわかりやすく説明した冊子や映像を製作していますので、それらを活用して患者さんに緑内障のことを深く知っていただくのが、早期治療の大切な認識していただきたいと思います。最後に、40歳を過ぎたら、緑内障の検査を受けてください。特に強い近視の人や、足元が見えなくなったら、必ず受けていただきたいです。

失明原因のトップ 緑内障

視野が狭くなるという初期は視野のほんの一部がぼやけるようになるだけです。何かをじっと見つめているのは気づきませんが、目が動かすとほんの少しの視野の欠落はわかりにくいのです。また、目は両眼ですので、片方の視野が少し狭いだけでも反対側の目がカバーしてしまします。少し進行して視野が上の狭くなっても、見えなくなると気づきにくくなります。目の状況から判断して映像を作り出してしまい、欠けている部分を補うといわれています。ですから、緑内障が進行して、かなり視野が狭くなって気づかないという段階になります。

緑内障を自覚して受診される患者さんは多いですか。それほど多くありません。このクリニックはコンパクトの処方しているのですが、40歳以上の方の検査を

シリーズ 地域医療を考える



緑内障を診断したり患者さんにお任せします。緑内障は進行が非常にゆっくりと進みますので、経過を見ながら治療を開始するかを患者さんの状況を診ながら決めることができます。例えば、高齢の患者さんで、視野が狭い程度でなければ、治療をしないことも、手術をしないこともできます。経過観察をしながら、急に悪くなるなど状況が変われば治療を始めるともなります。そして、すでに広範囲な視野欠損がある場合、将来の生活に支障が出る予地である場合は治療を勧めます。若い人であれば、早期に治療したほうが、より長く、視野を確保できます。このように、緑内障のことを詳しく説明して、どのタイミングで治療をするかを患者さんに選択していただくのです。治療法は？ 基本的には点眼です。眼圧を下げたり、血流を良くしたりする薬を患者さんに合わせて処方します。閉塞隅角緑内障では、レーザー手術や白内障手術で房水の流れをよくして、眼圧を下げることもあります。